

お茶うけ 第35話

古代アメリカ先住民の住居跡 キャニオン・デ・シェイ

今回のアリゾナ州の旅行で、最も印象に残ったのは、州の東北の端のチンリーの近くにある「キャニオン・デ・シェイ国立モニュメント(Canyon de Chelly)」でした。全体の面積は約3400平方Kmで、流れによってV字型に折れた峡谷の長さは全長約20kmあり、峡谷の深さは約300mもあります。

ここには、峡谷の切り立った岩壁に造られた、アメリカの先住民の住居跡があります。この峡谷には、BC2500年からBC200年頃まで、少数の古代人が岩のシェルターに住んでいましたが、その遺跡は残っていません。岩に残されたエッチングなどで、彼らが狩りと採集で生活していたことが知られています。

次に Basketmaker(BC200年～AD750年)と呼ばれる人々が、農耕を始め収穫が安定するに従い、それぞれの家に住みコミュニティを作りました。

続いて先住アメリカ人の Pueblo (プエブロ)族の先祖(AD750年～1300年)がここに来て、現存する岩壁の住居を造りました。切り立った岩壁の中腹をくり抜いて数階建ての住居とし、中には大きな集会室もありました。峡谷の底に下りるには、下に別の建物を造ったり、岩のかげらを積んで坂を造ったように見えました。

この深く入り込んだ地形が、外部の敵から住民を隠すのに役立つので、古代から人が住み着いたものと言われていました。それでも、いろいろな事情で峡谷の住民が変わり、現在は Navajo (ナバホ)族の人々が住んでいます。

高い崖の上からはるか下を見ると、渓谷の両側にそそり立つ岩壁の間の平坦な土地を蛇行しながら細い川が流れており、川に沿って緑の小さな農地が点々と続く中で、2～3頭の馬が静かに草を噛んでいました。先住アメリカ人の生活の息吹を感じさせる巨大な箱庭のようでした。



「キャニオン・デ・シェイ国立モニュメント」の中には、Spider Rock(蜘蛛の岩)と呼ばれる巨大な岩の柱とそれに寄り添う形のやや小ぶりの岩の柱 Speaking Rock(お喋り岩)があります。300mの深い渓谷の中央に、高さ240mの砂岩の柱が二本立っているのは、全く不思議な光景です。川の浸食で台地の一部が峡谷になる過程で、水のいたずらがこの柱を残したものと思われる。

Spider Rockの赤茶けた柱の頂点は、そこだけ岩石の種類が違うためか白く見えます。この柱には、ナバホ族の創造伝説で活躍した「スパイダー・ウーマン」が住んでいると信じられており、頂点の白いのは、悪事を働いて「スパイダー・ウーマン」に罰せられた人の骨であるという言い伝えがあります。案内者のスコットさんの話では、今でもナバホ族の人は、親の言いつけを守らない子供は、Speaking Rockに言いつけられて、「スパイダー・ウーマン」にさらわれるよ、と言い聞かせるそうである。

この国立モニュメントの一角にあるビジター・センターで、創造伝説と古代からの住民の歴史と現在の生活振りを紹介した、15分程のビデオ・テープを見ました。その中で、先住アメリカ人の生活に深くかかわっている、『偉大なる精霊』(グレートスピリット)の話と、それを讃える chant(詠唱)の静かな歌声を聞きました。

見学を終えて、次の「モニュメント・バレー」に向かうワゴン車の中で、スコットさんは、先住アメリカ人の歌う、「Walk in Beauty」のテープをかけ、今ヒーリングソング(癒し)の歌として、アメリカで広く聞かれていると話しました。旅行の途中で家内が購入したその歌のCDを聞きながら、これを書いています。無伴奏の物静かな歌声が、喧騒の中の都会の人々の心を和ませるものと思われる。

以上